

# 事業評価シート（平成26年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	平和意識普及・啓発事業		
事業担当	総務部 行政総務課		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	人間力 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'02	2 平和・人権に関する意識啓発を推進する	
根拠法令等	核兵器廃絶平和都市宣言(昭和60年12月20日告示第178号)		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託・協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 各種市民団体、学校等】		
目的・目標		事業の概要	
市民が平和の尊さ、大切さを自覚し、市民平和の夕べ等の平和推進事業に積極的に参加し、協力しています。		恒久平和を実現するため、核兵器廃絶平和都市宣言の理念に基づき、平和の尊さ、大切さを訴える平和意識普及・啓発事業を実施します。	

## 2. 事業の検証

活動指標	指標名	平和意識普及・啓発事業数			単位	事業
	説明・算定式	1年間に行う平和意識普及・啓発事業の種類数				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	13	13	13	12	
	実績	13	13	12		
活動指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
成果指標	指標名	平和意識普及・啓発事業参加者数			単位	人
	説明・算定式	1年間に行う平和意識普及・啓発事業のうち市民参加を伴うものに対する参加者数				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	5000	5000	5000	6000	
	実績	3612	3625	3487		
成果指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
進捗状況	: 予定どおり					
	遅れている理由					
平成26年度の主な取組と成果						
広く市民に平和の尊さ、大切さを伝えるため、平和キャンペーン、市民平和の夕べ、市民広島派遣、空襲・被爆体験をさく会等を計画的に実施しました。						
平成26年度の検証結果	C : 十分に成果をあげることができなかった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	恒久平和の実現に向けての取組みは人類に課せられた共通の義務であり、テーマと考えます。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	目先の流行や社会の潮流に流されることなく、地道な活動を続けることが重要です。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	特定の考え方にとらわれることなく、広く市民に訴えかけていく必要があります。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	多様な価値観を取組みにいかす必要があることから、市民団体との協働により進めている事業であり、その内容とプロセスに効率化等を求めることは困難であると考えます。	高中低
今後に向けた課題の分析				
平和に対する考え方は個人によって異なることから、行政がひとつの考え方を強制することなく、市民団体と協働で実施することを通じて、市民自らが平和に対する関心を持ち、平和についての理解と認識を深めていくための意識啓発が図られる必要があります。				

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		市民平和の夕べ、市民 広島派遣、市民キャン ペーンの開催等	市民平和の夕べ、市民 広島派遣、市民キャン ペーンの開催等	市民平和の夕べ、市民 広島派遣、市民キャン ペーンの開催等	市民平和の夕べ、市民 広島派遣、市民キャン ペーンの開催等
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	2,182	2,048	1,988	2,107
事業費 (A)		2,182	2,048	1,988	2,107
執行率 (%)		98.24	97.20	94.35	

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成28年度の取組方針
引き続き、平和キャンペーン、市民平和の夕べ、空襲・被爆体験をきく会等を通じて、広く市民に平和の尊さを訴え、平和の大切さを市民とともに考える活動を展開します。
課長コメント
市民自らが平和の尊さを考えるための助けとなる事業を市民団体との協働を通じて着実に続けることによって、意識啓発を進めていく必要があると考えます。